

いよいよ明日は運動会！みんなで自分らしい PLUS-ULTRA な運動会になってほしいと願っています。

## 勇氣と慎み深さ

いよいよ運動会が目前に迫ってきました。それぞれの学年が、それぞれの工夫や思いを込めて表現してくれています。とても楽しみです。

そんな中、5年生は恒例の台風の目に挑戦しています。ちょっとしたダンスも組み込まれていて、とても素敵です。が、台風の目は作戦が命だからこそ、練習が不可欠。その練習日に雨が降ると、外での活動ができません。

ある日の練習も雨。う～ん、残念と思っていると、体育館で対抗戦が始まりました。それも、フープを使った台風の目。本来の台風の目は、長く大きな竹の棒を使ったもの。体育館でしかできないので、今日は短いフープ。ずいぶん違うように見えるんだけど、何度か試技しているうちにそのコツをつかみ始めた子どもたちが！

よく見ると、2人組でコーンを回るときの位置取りにいろんな工夫があります。台風の目の本質は、遠心力の克服にあることに気づき始めているようです。フープであっても、竹棒であっても、その本質に気づき、練習すれば、すべて活用可能な技として生かせそうです。

そんな5年生の学年目標は「勇氣考憧（ゆうきこうどう）」

学び上手な5年生らしい目標です。その、学び上手になるための数ある要素の中で、特に次の2つの要素がとても重要だといわれています。それが「勇氣」「慎み深さ」です。

なぜでしょう。

慎み深さは、昭和生まれの私からするとなんとなくじわっとわかります。「先生の話をよく聞きなさい」とか「素直にやりなさい」など、ずいぶん言われてきました。だから、慎み深く受け止めることは大切だ。

では「勇氣」は？

学ぶことは、人ものコトとの出会いと対話による、よりよい変化だにとらえた時に、「変わる」という恐ろしい過程があります。天動説が地動説に変わるときもそう（[学校通信 No.1 「2008年なんてついこの間じゃん」参照](#)）。ふとした疑問を感じた時に、変わらないとどうしようもない場面になったときに、むくむくと立ち上ってくる焦燥感や恐怖感、もしくは煩わしさや面倒くささを乗り越える必要があります。

その時に、必要な資質が「勇氣」ではないでしょうか。

違和感を覚えた時に起きるその不穏な気持ちは、隠せば隠せるし、流した方が楽かもしれない。その気づきによって、平穏な生活を脅かされるかもしれない。それでも、真実を求めて、もっと向こうへ進むためには、勇氣をもってその疑問に向き合わねばならない。いわねばならない、やらねばならない時がある。

その勇氣こそ、学びの本質であり、格好いい5年生の目標としてとても似合っている言葉だなあと、私はつくづく思うのです。

